

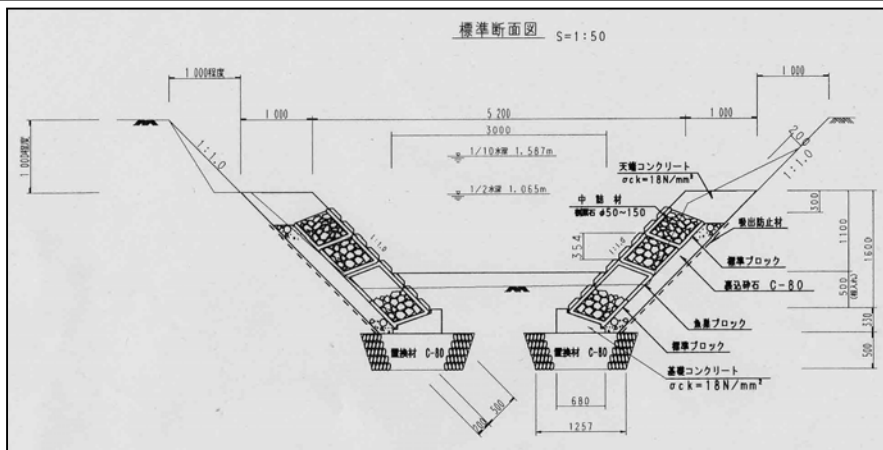
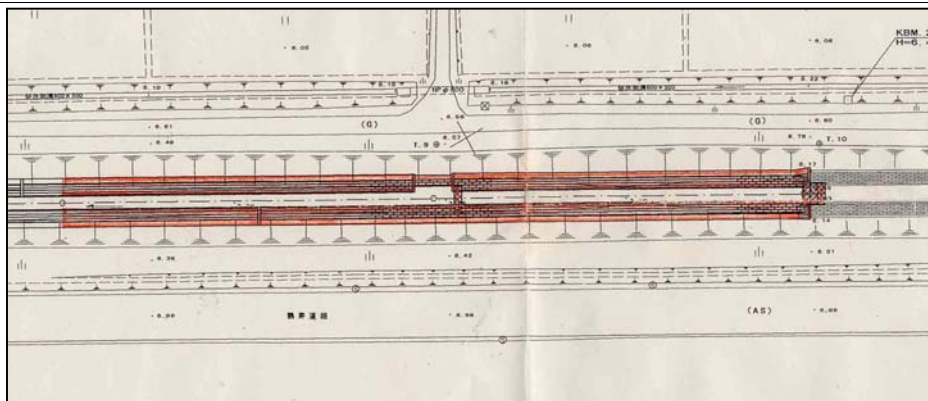
環境配慮工事データベース

作成(更新)年月日

平成19年1月31日

事業名	かんがい排水	地区名	岩木川左岸2期	市町村名	つがる市		
工種	排水路						
配慮事項区分	景観及び生態系の保全			施工年度	H17		
農業地域類型	平地農業			地形勾配	1/3000		
事業による影響	水路の改修によるヤリタナゴの消滅						
配慮施設に対する 保全対象生物の 選定及び選定理由	ヤリタナゴ	青森県レッドリスト(2006年改訂増補版) 最重要希少野生生物Aランク					
保全対象生物の生活史等から見た配慮事項							
配慮施設の構造等 を検討する際に留意 した事項	水路周辺の景観に合ったものとし、魚介類が自由に移動・生息できるように留意した。						
配慮施設の位置を 決定する際に留意 した事項	既設水路と同じ線形とした。						
環境配慮5原則区分	最小化						
配慮施設の構造		施設の設計条件等					
施設名称	中の川左岸承水路	用水期間	代掻き期	5月1日～5月15日			
箇所数 延長	L=640.2m		普通期	5月16日～9月5日			
			非灌漑期	9月6日～4月30日			
主要構造	環境保全型張ブロック	配慮施設の非灌漑期の 水の有無、確保状況		有			
		水深(cm)		流速(m/s)		流量(m ³ /s)	
		1.用水路		1.用水路		1.用水路	
		代掻き期		代掻き期		代掻き期	
		普通期		普通期		普通期	
		非灌漑期		非灌漑期		非灌漑期	
		2.排水路		2.排水路		2.排水路	
1/2流量	106.5	1/2流量	0.764	1/2流量	3.310		
護岸	環境保全型張ブロック	1/10流量	158.7	1/10流量	0.951	1/10流量	7.850
		非灌漑期	30.0	非灌漑期	0.605	非灌漑期	0.599
施設底	土砂	水路勾配	1/2000		護岸勾配 土羽勾配	1:1.0	
		施設諸元	水路底幅 B=3.0m		水路高 H=1.1m		
二次製品 使用有無	有						

施設平面図及び構造図



施設写真



写真説明

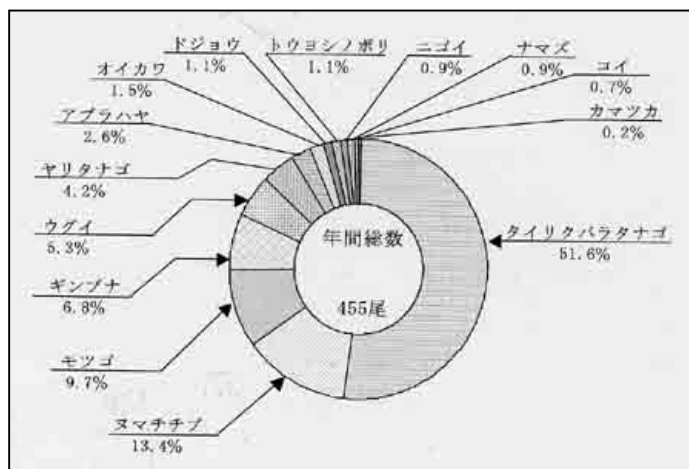
施工後翌秋に撮影。自然石模様の表面と植栽用の小穴部からの植生により景観に配慮している。また、張ブロックの中は空洞で、魚介類が自由に移動出来る。さらに、左岸と右岸で出入りする穴の位置の高さを変えて、水深が変化しても魚介類が通年生息できるよう配慮している。

環境配慮施設の設計条件等の決定根拠・参考文献						
施設の構造・規模の決定根拠等					参考文献(引用、出典)	
植物が繁茂できるように水路底を土砂にし、魚介類が生息・長距離移動できるような施設にした。						
モニタリング						
区分	調査有無	調査の種類	時期	回数	調査方法	施設の状況
施工前	有	魚介類	H16	3回 (6・8・10月)	サデ網、セルびん	土砂堆積:有 水草:有
施工中	無					
施工後	有	魚介類 底生動物	H18	2回 (8・10月)	サデ網、セルびん	土砂堆積:有(少) 水草:有(少)
工事中 の一時的 避難	避難有無	避難対象生物				
	無					
モニタリング 結果概要	施工前	調査の結果、4科14種が確認された。その中で、希少種であるコイ科のヤリタナゴが確認された。				
	施工中					
	施工後	魚介類では、4科17種が確認され、施工前の調査よりも3種増えた。また、ヤリタナゴも確認された。 底生動物では、16種が確認された。その中でも、二枚貝のドブガイが確認されたが、ヤリタナゴは二枚貝に産卵するので、ヤリタナゴの産卵条件が存在している。				
モニタリング結果 からの評価		施工後の調査結果により、水路の改修による生態系への影響はほとんどなかったと判断できる。				

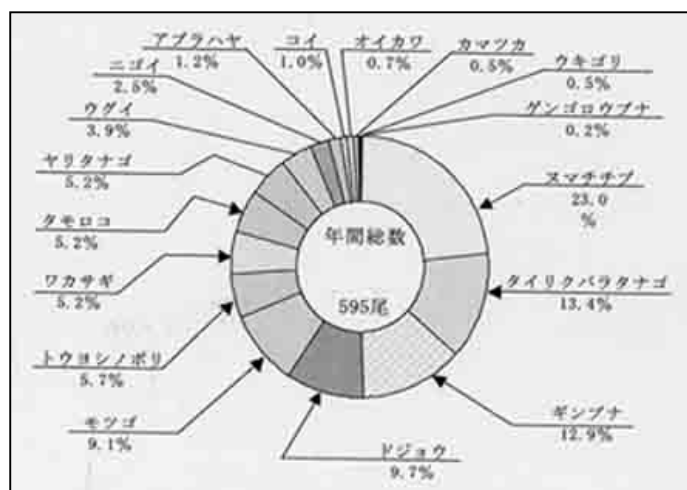
営農を考慮した工法の検討		
営農上の課題、農家の意見・要望	左に対する工法等の工夫点	その他の課題
維持管理を考慮した工法の検討		
維持管理上の課題	左に対する工法等の工夫点	その他の課題
管理用道路との高低差があるため、天端コンクリートの幅が狭いと水路に転落する危険性がある。	従来の張ブロック工法より広く天端コンクリート幅がとれるように、奥行きがあるブロック製品を使用した。	水路底や張ブロックに密生した植物による流水の阻害が懸念される。
環境配慮施設の施工面での留意点、工夫点		
留意点	施工中でも魚介類や底生生物が生息・移動できるように留意した。	
工夫点	半川締切工法にした。	
環境配慮施設の今後の維持管理方法		
留意点	魚介類の生息場所を確保するため、張ブロック内空洞部に堆積した土砂を浚渫する。 植物の密生による流水阻害防止のため、適度な草刈りをする。	
環境配慮施設の工事費 (諸経費を含む)	199,305千円(311千円/m)	
実施設計担当者職氏名	主査 吉澤 寿規	
工事実施担当者職氏名	主査 福士 昭夫	
施工後モニタリング担当者職氏名	技師 高松 文敏	
データベース作成(更新)者職氏名	技師 高松 文敏	

モニタリング結果資料

魚介類調査結果(施工前:H16)



魚介類調査結果(施工後:H18)



その他特記事項

調査状況写真

写 真 票		整理番号
調 査 名		調 査 年 度
岩木川左岸2期改第29号委託		平成18年度
<p>撮影年月日： 平成18年10月5日</p> <p>説 明： 魚介類調査（サザ網）</p> <p>調査地点：④</p>		
<p>撮影年月日： 平成18年10月5日</p> <p>説 明： 魚介類調査（セル瓶）</p> <p>調査地点：④</p>		